

immediate release for project N March 2011

2011年度 ラインナップ決定のお知らせ

project N 45 - 48

artists: 45…クサナギシンペイ
46…石井 亨 (いしい・とおる)
47…上西エリカ (かみにし・えりか)
48…佐藤 翠 (さとう・みどり)

謹啓 このたび、2011年度 "project N" の作家4名が上記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。
"project N" は、当館コレクションの中心作家である故 難波田龍起氏の遺志を受け継ぎ、若手作家の育成・支援を目的として1999年12月に開始した企画です。これまでにご紹介して参りました下記44名の作家は、皆さまのお力添えをいただき、ますます活躍の場を広げています。

1999年度:01 南川史門/02 荻野僚介
2000年度:03 今野尚行/04 SASAKI/05 蛭名優子
2001年度:06 高橋信行/07 北浦信一郎/08 今澤 正/09 田中栄子
2002年度:10 英 裕/11 大塚泰子/12 小木曾瑞枝
2003年度:13 西澤千晴/14 井上 実/15 牧谷光恵/16 中山美央子
2004年度:17 東亭 順/18 高橋将貴/19 小西真奈/20 馬場 恵
2005年度:21 中岡真珠美/22 高木紗恵子/23 森本太郎/24 小林 浩
2006年度:25 ヒラタシノ/26 山川勝彦/27 山内崇嗣/28 富倉崇嗣
2007年度:29 須藤由希子/30 田尾創樹/31 山口聡一/32 名知聡子
2008年度:33 長井朋子/34 近藤恵介/35 ましもゆき/36 原 良介
2009年度:37 阿部岳史/38 山下美幸/39 住田大輔/40 熊谷直人
2010年度:41 喜多順子/42 川見 俊/ 43 河井美咲/44 吉田夏奈

つきましては何卒この機会に、"project N" ならびに各展の周知・告知活動にご協力賜りますよう、よろしく願い申し上げます。なお、各作家についてのより詳しい情報については、お気軽にお問い合わせ下さい。

謹白

[開催概要]

project N 45 クサナギシンペイ 2011年4月9日 [土] ⇒ 6月26日 [日]
企画展「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」/収蔵品展037「李禹煥と韓国の作家たち」

project N 46 石井 亨 2011年7月16日 [土] ⇒ 10月2日 [日]
企画展「Tokyo Metabolizing (仮題)」/収蔵品展038「保田井智之展(仮題)」

project N 47 上西エリカ 2011年10月18日 [火] ⇒ 12月25日 [日]
企画展「東京クリエイティヴ (仮題)」/収蔵品展039「Younger Generation(仮題)」

project N 48 佐藤 翠 2012年1月14日 [土] ⇒ 3月25日 [日]
企画展 未定/収蔵品展040「寺田コレクション秀作展(仮題)」

会 場= 東京オペラシティ アートギャラリー 4Fコリドール

主 催= 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

開館時間= 11:00-19:00 (金・土は20:00まで。入館は閉館の30分前まで)

休館日= 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日。ただし5月2日 (月) は開館) / 全館休館日 (8月7日、2012年2月12日)

入場料= アートギャラリー入場料に含まれます。収蔵品展入場券 (200円) でもご覧いただけます。

◎ 貴誌にご掲載いただく場合の[問合せ先] = TEL : 03-5353-0756

◎ project N に関するお問合せ:

東京オペラシティ アートギャラリー 吉田(広報)

TEL:03-5353-0756 FAX:03-5353-0776

Email: ag-press@toccf.com

ARTGALLERY
TOKYO OPERA CITY

● 45 クサナギシンペイ KUSANAGI Shinpei (1973年生まれ/東京都在住)

装画などイラストレーターとしての仕事から出発し、近年ペインティングの制作で著しい進展を見せるクサナギシンペイ。地塗りを施さない生成りのキャンバスに、薄塗りの色彩を層状に施し、メディウムとの対話を通して抽象的かつ精妙な空間を現出させる。同時に観る者に時間の感覚や物語、そしてさまざまな記憶さえ喚起する画面は、あらゆる意味で多義的かつ濃密な豊かさや強度を獲得している。制作とは、システムの反復ではなく、未知のなにものかとの出会い、あるいは気づきのための模索だと語るクサナギの確かな足取りに注目したい。

◎ 主な個展は2007年「エレホン」(Gallery.sora、東京)、09年「アイデス」(タカ・イシイギャラリー京都)、同年「Towing Voyage」(Altman Siegel Gallery S/F、サンフランシスコ)。主なグループ展は02年「フィリップモリス・アートアワード最終審査展」(東京国際フォーラム)、05年「5 Japanese artists in Vienna」(パレス・ボリツィア、ウィーン)、11年「VOCA展2011 新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京)など。



《幽霊になりたい》
アクリル絵具、キャンバス / 116.7 × 91.0 cm / 2011
photo: mie morimoto
courtesy: Taka Ishii Gallery

● 46 石井 亨 ISHII Toru (1981年生まれ/埼玉県在住)

伝統的な友禅染の技法を用いて、日常生活の用に供される工芸を視覚芸術へと転換する石井亨。ヒップホップカルチャーの一要素であるグラフィティの影響を強く受けていた初期作品を経て、イギリス留学を転機に、自らのバックグラウンドとしての日本文化や伝統芸術に立脚した制作をスタートさせる。2007年以降、現代日本社会を象徴するサラリーマンがモチーフとなり、主題は「都市」へと発展した。日本の伝統芸術の文脈から抽出した要素を画面に織り込む独創的な手法によって、石井は伝統を継承しつつ、その先にある普遍的価値をもった「新たな伝統」の創造を目指す。

◎ 2006年代官山アドレスディセ(東京)、07年unseal contemporary(東京)、10年「都市の時間」(ミヅマ・アクション、東京)で個展開催。主なグループ展は06、07、08年「SICF」(スパイラル、東京)、07年、10年「第1回汐留クリエイターズコンペティション」(SIO-SITE、東京)、09年、10年「三菱商事アート・ゲート・プログラム」(GYRE、東京)など。

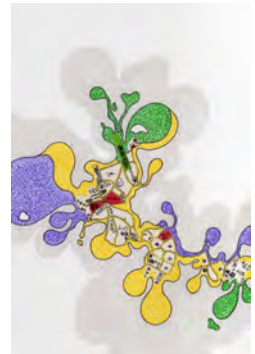


《地球船都市号》
友禅染、絹、パネル / 164.0 × 92.0 cm / 2010
photo: MIYAJIMA Kei
courtesy: art gardens / Mizuma Art Gallery

● 47 上西エリカ KAMINISHI Erica (1979年生まれ/東京都在住)

日系三世としてブラジルに生まれた上西は、自らのルーツであり空想の対象であった日本、生まれ育ったブラジル、そして現在居住する現実の日本という複数のバックグラウンドの関係を考察し、その作品は想像と現実、過去と現在を交差させる試みである。江戸時代の地図の切り抜きを、ポルトガル語圏の偉大な詩人であるフェルナンド・ペソアの詩がびっしりと囲んだ作品では、「あらゆる道があらゆる場所へと通じる」というその詩のあらわすとおり、領域を超えて時間的・空間的の広がりを見せる。言語と造形芸術を融合させた上西の試みは、極めて個人的なテーマを扱いながらも観る者を壮大な旅へとといざなう。

◎ 主な個展は2001年クリチーバ市文化財団(パラナ、ブラジル)、グループ展は07年「国際アートトリエンナーレ」(大阪芸術大学、大阪)、08年「アーツ・チャレンジ2008」(愛知芸術文化センター)、「ブラジル×ヨコハマ 時の懸け橋」(横浜市民ギャラリー、神奈川)、10年「あいちトリエンナーレ2010」(長者町会場、愛知)など。

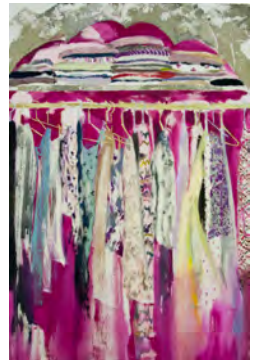


《In(verses) Ways」(Second Series)
インク、紙、コラージュ
29.7 × 21.0 cm / 2008

● 48 佐藤 翠 SATO Midori (1984年生まれ/神奈川県在住)

好んでクローゼットのなかの服を描く佐藤翠。ファッション誌などのヴィジュアルから想像を膨らませて描かれる作品は、洗練されたファッションブルな感覚を如何なく示すが、余白を残した画面に、水分を多く含んだ絵具でさっと刷くように描いて臍纈(ろうけつ)染のようなグラデーションを見せるなど、表層的な装飾性にとどまらない、複雑な奥行を表現するのに成功している。好きなモチーフを的確に描き出し、フェティッシュともいえる一面をもストレートに見せる画面には、この作家のモチベーションとテクニックの高さが端的にあらわれている。

◎ 2008、10年「ART AWARD TOKYO」(東京)で入選(10年小山登美夫賞受賞)。10年「Blissful moments」(トーキョーワンダーサイト本郷、東京)で個展開催。主なグループ展は08年「モンブラン ヤングアーティスト / パトネージ イン ジャパン」(MONTBLANC銀座本店、東京)、「Art Program Ome 2008『ポストシアター』」(青梅市勝沼公会堂、東京)、09年「トーキョーワンダーウォール公募入選作品展」(東京都現代美術館)、10年「Unique Commons」(名古屋芸術大学、愛知)など。



《Red closet》
アクリル絵具、綿布
194.0 × 130.3 cm / 2010